

鳥インフルエンザは鳥から人間に感染したので、当時、香港に175万羽の鶏がいたのですが「一晩で、全部殺処分しなさい。」香港政府は賢明にもそれを実行したんです。一晩で、香港に生息している全ての鶏を全滅させ、それによって見事に抑え込む事ができました。その時の指導者が根路銘教授。

SARSは30か国8千人。バツと広がり、年齢によって致死率は違うけど平均致死率9.6%。重症肺炎になるという事でした。世界で最初にSARSの終息宣言が出来たのがベトナムです。そのベトナムに行って、「こうしたらいいから」と助言したのが根路銘教授なんですね。

彼はコロナウィルスの専門家です。色んな意見があるので、その中の1つと考えていただきたらと思います。コロナウィルスのコロナは王冠という意味です。王冠にはトゲトゲみたいなものがありますよね。コロナウィルスには外殻・外側の殻があって、王冠のトゲトゲみたいなのがいっぱい付いています。このトゲトゲの鉤状になっているものをスパイク蛋白質と言うそうです。スパイクはスポーツシューズの靴底に釘みたいに出ている金具。

コロナウィルスのスパイク状のトゲトゲが細胞にくっつくと、細胞の受容体と言われるものの中にシュッと侵入するそうです。侵入したら、細胞の中で、細胞そのものを原料にして自分を増殖させます。そうして細胞内で増えるだけ増えると、細胞を食いつぶして外側に溢れ出て、隣の細胞に増殖します。だから、この突起というか、王冠のトゲトゲの部分が非常に問題なのです。

ところが、根路銘教授によると、このトゲトゲは空気に弱い。風がフーッと吹いて来ると、大体1-2m行く間にトゲが抜けるそうです。トゲがないコロナウィルスは髪の毛がないあなたのように…、いやいや、トゲがないコロナウィルスは、ウィルスとして存在しても、細胞内に侵入する事ができないんです。彼が言うには、1-2mあれば死滅する。

実際彼は、トゲがきれいに並んでいるコロナウィルスの写真を電子顕微鏡で撮影しようと思って、培養したコロナウィルスを作り、精製した物でやろうとしますが、空気にちょっと触れるだけでいっぱい抜ける。きれいなコロナウィルスを探すのは難しかったと。つまり、空気感染しない。飛沫感染ししかない。

それで、ベトナムに行った時に指導した事は換気です。1に換気、2に換気、3・4がなくて5に換気。病院の窓という窓を思いっきり開け放し、新しい風を入れて入れて。今この場所は密閉…。まあ、90分やから。とにかく新しい風を入れて。

彼の指示に従ったA病院と、従わなかったB病院の比較があるのですが、B病院はいつまで経っても終息しない。A病院は速やかにSARSが終息し、それに倣う病院が出て来る事によって、ベトナム全体は世界で最初にSARSの終息宣言をする事ができました。

換気なんです。密閉が一番ダメ。となるとダイヤモンド・プリンセス号。これは最悪の対応という事になるんですね。船の窓は基本的には開きません。窓はあっても開閉式ではない。ダイヤモンド・プリンセス号を調べてみたら、パンフレットを見ると乗りたくなるような船。なんと、戦艦大和よりも大きいんですよ。人類史上最大の戦艦は戦艦大和・戦艦武蔵です。これよりも大きくて、ほぼほぼアメリカの原子力空母と同じサイズ。排水量(重量)は戦艦大和の約2倍ですよ。めちゃくちゃ大きな船。ダイヤモンド・プリンセス号とサファイア・プリンセス号があるのですが、悪いイメージが付きましましたね。

船内で発症した事が分かって、カジノやショーをやってたんですね。そうであったとしても、風通しが良かったらいいんですが、そうではなかった。「部屋の中に入れてください。できるだけ外に出ないでください。出歩かないでください。」これは最悪の事だったと根路銘教授は言います。武漢でも1箇所に病人を集めて隔離し、密閉していますが「それも止めた方がいい。というよりも、絶対に良くないんだ」と。

東京オリンピックはどうなるのか？コロナウィルスは暑くなると生きる事ができないそうです。だから、ウィルス研究の大御所である彼が言うには「3月までに終息する。」
「この人が言うには」と言う事で、私、何か保険掛けてるみたい。「俺が言ったんじゃない」みたいなね。

でも、この方はすごく実績があるという事で、空気感染はしない。飛沫感染しかしない。「飛沫感染はするんか?!」大丈夫です。今日、(唾が)飛ばないように喋ってるから。という事で、正しく恐れるという事がとても大切だと言えます。

さて、私はコロナウィルスの問題よりも、「大国が自分の戦略を実現するために、コロナウィルスの肺炎を政治的に利用して、これを口実として用いようとしている」というところに注目する方が、何か利益があるように思います。

これから世界がどのように動いて行くのか？やはり潮流というのがありますよね。海には潮の流れがあって、それに逆らって泳ぐと疲れる。潮の流れに任せて乗っかっていくと、楽しく進む事ができると思います。潮の流れに逆らって行く事は、非常にしんどい事ですね。もちろん、潮の流れに波のデコボコがあるので、反対に向いているように感じる時もあるけど、大きな潮の流れは、やっぱり世界の中にある。

この大きな国際潮流の流れを作って行くのは、その時代に最も大きな力を持っている国・大国です。今でいうとアメリカ。トランプ大統領がこれから世界をどう運転して行こうとしているのか、アメリカはどの方向に進んで行こうとしているのか、を見るという事がとても大事になるのです。この潮流に逆らったら、どんな経営者も失敗します。

トランプ大統領は、どんな考えで世界に向かって行こうとしているのか？それをビジュアルで見るのに非常に良い教材が、ついこの間ありましたね。アメリカの一般教書演説。

日本は議院内閣制で、議員の中から総理大臣が選ばれるので、総理大臣が議会に出て発言する機会はとても多い。アメリカは三権分立が厳格に言われているので、行政府のトップが立法府の議会に行って話をする機会は滅多にありません。

「話をしてください」と招かれた時は、大統領は議会に行くけど、そんな機会は滅多にない。そういう大統領にとって、議会を前に思い切りパフォーマンス、訴える事が出来るのが一般教書演説。簡単に言うと、過去1年に自分がやって来た事の報告と、これからの1年、未来に向かっての目標・ビジョンを議員たちにアピールして、「どうぞ、協力お願いします」という演説です。

ところで、トランプ大統領は3年がもう終わっています。今年11月にアメリカ大統領選挙がありますね。なので、今回の一般教書演説は、トランプ大統領が大統領選挙を意識した選挙演説のための約1時間。YouTubeで見れます。あれは楽しかったな。僕の趣味です。ちゃんと字幕スーパーが出るからありがたい。トランプ大統領が入って来た時、共和党議員たちが「More Four Years!」

日本でなら「あと4年！あと4年！もう4年！」（*野球の「あと1球」の調子）
「次の4年間も大統領やってください！」みたいな。それを民主党議員がブスーっとして。

トランプ大統領が「やあ！やあ！」と入って来て、過去3年間自分がやって来た事を言います。
「私の政権は過去50年間で最も失業率を下げる事ができた。」「私の政権は3年間で一般勤労者の雇用を16%上げた。」「一般アメリカ人の収入の中央値は過去最高だ！」
「私の前の民主党政権がアメリカをムチャクチャにしたのを、私は3年でひっくり返した。」

民主党議員はもうブスーって感じですが、トランプ大統領は言いながら乗って来て、「国内政治でこんな事を・あんな事をします」と、教育や福祉に対してもしっかりやっているとアピールしました。
私たちに直接関係がある話は外交戦略です。
これに関しては日本の8年があります。1つは中東問題、もう1つは東アジアの問題です。

ところで、一般教書演説ではゲストを招いて、サプライズで皆の前で紹介したりして講演を盛り上げていくので、教書演説というよりもショーですよ。トランプ大統領はショーマンですよ。

「この会場に英雄のご両親がいる。」イスラム国がまだ健在の時、シリアからたくさんの難民がトルコに逃げて行きます。その難民のために、ボランティアとして働いていたクリスチャンの女性がいました。ケイラ・ミューラーさん。24歳。彼女が国境なき医師団に会うためにシリアに入った時、イスラム国に拉致され、連れ回され、最終的にはバクダディにレイプされて殺されるのです。2015年。亡くなった時26歳。

このバクダディ（1971-2019）が、去年、アメリカの特殊部隊によって殺害されましたね。
あの作戦の名前が“タスクフォース8.14”8月14日はミューラーさんの誕生日です。
「ここに、ミューラーさんのご両親がいます。拍手して迎えましょう。」
そして、「私はイスラム国を倒した。アメリカがシリアにいない理由にはイスラム国だったが、その頭を倒した。蛇は頭を切り落としたり、もう意味がない。私はイスラム国を倒した。」
みんな、ワーッと拍手。

次に、イラクに従軍中だった軍曹の遺族たちを呼びました。
彼はイランの革命防衛隊が仕掛けた路肩爆弾によって爆殺されたのです。
「イランの革命防衛隊がなぜイラクにいるのか？イラクの治安を維持しているアメリカ軍を攻撃するためだ。イラクで工作活動をしていたイランの革命防衛隊トップのスレイマニ（1957-2020）をアメリカの無人機で爆殺した。この人たちは英雄です。」拍手。
つまり「私は、アメリカの軍隊の最高司令官として十分な手腕を持っている」という事を、ここでもまたアピールするのですね。

一般教書演説の最後に登場したのが、お父さんが4回目のアフガニスタン勤務を命じられて、何か月もお父さんの顔を見ていない子供。お母さん（妻）もいました。「辛いだろうけど、もうちょっと待っててね。頑張っってね。皆さんの忍耐に私は感謝しています。ありがとう。」
言った直後に、アフガンから戻って来たお父さんが出て来る。そして、久しぶりに再会した親子がグッとハグして。この時もう「USA！USA！」愛国ムード一色のような状態になって。
これを最後に持って来ている。何を意味するかというと「私はこれを実現したいのだ。」

すなわち、トランプ大統領が一般教書演説で言いたいのは「中東から出て行く。」

イスラム国がいたからシリアにいた。でもイスラム国が無くなった。いる理由が無くなった。
イランは外側で色んな悪さをするけど、それは革命防衛隊だ。そのトップを倒した。もう大丈夫だ。
アフガニスタンにいつまでも居続ける事は、あまりにも大きな犠牲を払い続ける。
だから、アメリカは中東から出て行きます！という事を、一般教書演説の最後に、ビジュアルで見せつけて宣言したのです。

これからの国際潮流は、アメリカが中東からいなくなっていくという潮流です。
まず、これを覚えておくべきですね。次に、アメリカが中東からいなくなったらどうなるか、を考えなければなりません。これは後で言います。もう1つは東アジアの問題です。

非常に印象深かったのは、103歳の元アメリカ空軍のパイロットを呼んだんです。103歳の黒人の人。
かくしゃくとして、胸にたくさん勲章を付けて出て来るのですが、隣に若いお兄ちゃんがいてる。
13歳の孫ですよ。孫が「自分には夢がある。コロラドの空軍士官学校に入って、宇宙軍のメンバーになる事だ。」おじいさんと孫が、国家の安全保障のために戦う。「宇宙軍で戦うんだ！」

103歳の元空軍パイロットは、第二次世界大戦時、中国上空で日本と戦いました。
それが終わった後、朝鮮戦争で戦いますが、北朝鮮の空軍は実際は中国の軍隊です。
つまり、東アジアでずっと戦い続けて来た人物。しかも朝鮮戦争で大きな手柄を立てた人物。中国と戦って来た人物。そして、孫は宇宙軍と言ってる。

アメリカは陸・海・空の3軍+海兵隊+沿岸警備隊。第6番目の軍隊として宇宙軍を創設すると言っています。宇宙軍は中国が1番力を入れている。これは、はっきりと米中戦争の準備です。
熱戦ではない。でも、中国に対して、しっかり立ちはだかって行くという意思表示をしたのです。
だから、外交の柱は、中東からは出て行くが、出た事で稼いだエネルギーを対中戦争に振り向けて行く。
アメリカ史上最大のお金を軍隊に費やしました。2.2兆ドルですよ。
トランプ大統領は宇宙軍を造って対峙して行くという宣言をしたのです。

なので、これはよく考えておかなければならない事です。どんな天才的な経営者でも、この潮流に逆らった選択をしていくのは、大やけどをする可能性があると思います。

ゴーンさんがレバノンに行きましたね。ゴーン。タンスに？ゴーン。Go/Went/Goneしたわけですよ。
日産のCEOだったけど。
ところで皆さん、日産自動車は日本の自動車メーカーの中で、1番中国に前のめりの企業ですよ。
新しい電気自動車だけで20車種を中国で発売する。

なぜ日産がそんなに中国に前のめりか？日産の大株主はルノー。ルノーの大株主はフランス政府。
フランス政府は中国に前のめり。だから、その延長線上で、日産の戦略としてはそこに行かざるを得ない。
ゴーンはそれを指導して来たのですが、それに対する警告は何度も受けていたと思いますよ。
だけど、どんどんそこに入って行った。

今回、彼が脱税、会社のお金を横領する、しかもマネーロンダリングしながらそれをやっていたという事が分かるのですが、そんな事がどうやって分かったかというアメリカのリークです。
端的なのは、税金問題なのに、ゴーンさんの捜査をしたのは国税局ではない。東京地検特捜部。
特捜部はロッキード事件みたいに、国際問題に関わる時に出て来る最強部隊ですよ。

一企業のトップが脱税した。なぜ国税局ではなくて、いきなり特捜が出て来たのか？
これは明らかに、アメリカの力がかかっていますよね。

中国にのめり込んで行くという事は、対中戦争の戦闘モードに入っているアメリカを敵に回すという事。
天才的な経営者がその潮流に逆らって何をしたとしても、潮流に逆らって泳ぐのはしんどい事です。

孫（そん）さんもそうじゃないですか？ ソフトバンク。携帯電話の会社だと思ったら大間違い。
投資会社です。投資会社のソフトバンク・グループの中に、携帯電話会社が1つぶら下がっている。
ソフトバンクはアリババという中国企業の株を買って、それが大暴騰した事で大化けしました。
大化けしたアリババの株がソフトバンク・グループの資産となり、それを担保に銀行からたくさんのお金を借りて、ビジョン・ファンドを作っているのです。
これは、中国の国策企業に肩入れして行くという事です。
孫さん、アメリカを敵に回すような戦略をして行くという事で、今きついです。

イギリスのアーム（ARM）社。
携帯電話のプロセッサの核の部分を作っていて、世界の90%以上のシェアを持っています。
2016年にソフトバンクがアーム社の株を買って、2018年にその株を中国の国策ファンドに売ってしまった。
それによって、イギリス・アーム社がアーム・チャイナ社という子会社を持ち、そこを通して、アーム社が持っているハイテクノロジーの基盤技術が中国の軍隊に流れ出します。
これは、アメリカが絶対に許したくない事。「なんで、そんな事する？」と。
だから、彼がアメリカで同様の仕方で企業を転がして行こうとするのは、色んな追及でスキャンダルが出て来て難しくなっています。この大きな潮流自身を変える事はできない。
今、中国に対する戦闘モード/戦って行くという事は、アメリカの既定路線となっているわけです。

さて、新型コロナウイルスの問題。トランプ大統領が、これを1つの口実としてやった事を紹介したい
と思います。1月31日、アメリカは中国にいる7万人のアメリカ人全員に帰国命令を出しました。
中国には7万人ものアメリカ人がいたんですね。

中国に“メイド・イン・チャイナ 2025（中国製造 2025）”というプロジェクトがあります。
「中国は2025年までに、世界のハイテク（7つの分野があるのですが）のトップの国になる。」
金に糸目をつけないで研究をしますが、自前の研究だけでは追いつかない。
そこで、世界中の研究者・技術者・様々な知識を持っている人たちを中国に呼んでいたんです。
その内、アメリカ人のハイテク研究者・技能者は6千人います。
彼らは中国国内でハイテクの共同研究や様々な技術を開発して、中国に渡しているのです。

「なぜ、そんな事をするんだ？」と思うかもしれませんが、これは日本人もやっていますよ。
先日、面白そうだと思って、『日本人の値段』という本を読みました。
日本の大企業の技術者たちも50代後半になると、早く引退するように、退職するように促されます。
「もっと仕事したい。もっと頑張りたい」と思っているし、まだまだやれる自信もあるけど、たくさん給料取るからと、なんか待遇悪い。そういう時に、「あなたの技術が必要です。思う存分研究費を使って、
中国で働いてみませんか？」とヘッドハンティングされる。

一番人気は自動車関連の部品工場だそうです。自動車はたくさんの部品の集合体で、日本の部品は非常に優れているのですね。部品関連で、初年度平均2700万円だそうです。

じっとしてたら色々な所から「ウチに来ないか」と声がかかり、数年したら大体 3600 万円くらいになるそうです。ソニー・三菱自動車・東芝・日立・パナソニック。そういう技術者たちが「中国に行ったら給料がいただけでなく、研究費がドンと出て思う存分研究できる」という事で渡って行ってます。日本人は大体 6 千人以上いるだろうと。欧米人はもっと給料が高い。この方の本がまた面白い。『中国てなもんや商社』とか。僕はこの人のファンなんです。

『日本人の値段』の中で、この方がインタビュー。

「嫌になる事、ありませんか？」「ありますよ！めっちゃ、ありますよ！」「どんなんですか？」とにかく誠意がない。技術者には技術者としてのプライドがあるでしょ。そんなプライドない。特許、盗みまくり。デザイン、コピーしまくり。設計図描かせたら、そもそも基準線がない。なのに、製品はできる。設計図通りに作ったら出来ひんのに、製品は何となく出来てる。

試作品通りに出来たためしが無いのに、直ぐに大量生産する。なので、よく爆発するそうです。何が？冷蔵庫。冷蔵庫は冷やす物でしょ。爆発する冷蔵庫。電子レンジ。怖いやん。クーラー。ポーン！1 番ひどいのはバキュームカー。これ満タンで爆発したら、口にするのもおぞましい。「それなのに、行くんですか？」『あなたの技術が必要なんです』と言われたら、人情として悪い気しないじゃないですか。」それで行ってしまう。

ところで、中国は人件費が安いからと、色々な企業が工場を建てたりしますが、そんな所で、こう人たちにたくさんのお金を払う力があるのか？企業には無いです。でも中国の大企業は、バックに人民解放軍が付いている。人民解放軍が彼らの手当てを出し、研究費を出すので、そこで開発された技術は、全部人民解放軍が吸い取って行きます。他にもハニー・トラップとか、色々な事でがんじがらめになって、出られなくなって行くという事です。

トランプ大統領は「人間にはもちろん移動の自由があるが、新型コロナウイルスは感染力が強く、この先どうなるか分からない。なので、中国にいるアメリカ人 7 万人は全員戻って来い！」命令で戻りました。そして、中国の人はアメリカに入国できないようにしたんです。

その目的は、トランプ政権は“メイド・イン・チャイナ 2025”に非常に危機感を抱いていたので、すぐに国内の中国人スパイ狩りをやっていたけど、中国国内にいる技術者の取り締まりは手が出せませんでした。その人たちを連れ戻して、そして、どういう技術を提供して来たのか取り調べが始まり、今毎週のように、有名な学者たちが逮捕されたり、告訴されたりしています。

中国国内からアメリカ人がいなくなり、アメリカ国内から中国の技術者たちがいなくなるという事は、ボーダレス化の逆行ですね。ボーダレスとは物・金・人が自由に往来する事です、仕切りを立てて「来るな・行くな」「来るな・行くな」。こうする事によって、これ以上、アメリカの技術やハイテクノロジーが中国に吸い取られるのを阻止する。それを正当化するために、今回の新型コロナウイルスの問題をフルに使っているという事なんですね。これが東アジアの情勢です。

後半、中東問題について少しお話したいと思います。

中東問題の流れについては、アメリカは撤退するという事です。

国際関係では、大きな力が撤退して力の真空状態ができると、そこを埋めるために別のパワーがパッと入って来ます。真空を埋めるべく、アメリカに代わる国際パワーがそこに入り込んで来る。

アメリカが中東から出る理由 1. もうイスラム国を倒した。もちろん残党はまだいるし、イスラム国の組織は倒しても、その思想は生き残って世界中に広がっているのです、まだまだ油断できません。ただ、世界中に広がっているのであって、中東にいる理由ではない。

その典型がシリアです。イスラム国が最大面積を誇っていた時は、シリアの 1/3 とイラクの 1/3 を握っていて、アメリカはイスラム国を撲滅するために同盟を結んだ相手がありました。それはシリアの反体制の軍隊で「シリア市民軍」と言われているグループ。主力部隊はクルド人です。

クルド人は国を持たない世界最大の民族と言われていて、4 つ 5 つの国に 3 千万人が散らばっています。彼らを主力とするシリア市民軍を地上部隊として使い、アメリカは空爆及び地上軍の指導だけをして、自らが泥沼に入り込まないように戦い、遂にバクダディを落として、イスラム国を倒したという事です。

クルド人部隊がアメリカに協力したのは、イスラム国を追い出して、支配していた部分が空き地になったら、そこに自分たちの国や自治区を造ってもらえるという事を期待したからです。

ずーっと国が無い。でも血を流して協力したら、その見返りとして、ここに自治区や国家のようなものを造ってくれるのではないかと期待して戦ったのです。そして成果を上げた。

そして…、トランプ大統領は国を造る前に去った。戦友を裏切った。

だから、アメリカの国防長官はそれを諫めるために辞任・辞任となって行ったのですが、トランプ大統領は耳を貸さなくなったんですね。

アメリカがいなくなって、力の空白が生まれた後どうなったか？

ロシア・トルコ・イランがシリアに入って来て、力の空白を埋めました。

ロシアはシリアの後ろ盾です。ロシアは地中海に出るために、自分の海軍基地がどうしても欲しい。

そのためにシリアを助けたわけです。シリアの後ろ盾となって海軍基地を持ち、根拠地を造りました。

トルコはシリアのすぐ北側なので、難民がたくさん入って来る。

シリアの今のトップはアサド。シーア派の親戚です。

トルコはスンニ派なので、ここでシリアが盛り返すのは面白くない。

だから、南の方（シリア側）を何とか取りたい。

イランはシリア内に自分たちの基地を造りたい。イランの基地が出来ると、イスラエルとシリアは隣り合っているのです、イスラエルにとっては非常に危険な事。だから、革命防衛隊のトップを倒した。

つまり、アメリカの空白をロシア・トルコ・イランが分捕り合戦みたいな事をして草刈り場にした。

これは、何度もここで話した事なんですね。

実は今、次のシリアが中東に生まれているんです。今日はそれをお話しします。

まず聖書預言を見たいと思います。エゼキエル書 38 章。すっかりお馴染みになったでしょうが、エゼキエルとは人の名前です。エルは「神」。エゼキエルとは「神が強めてくださる/神に強められた人」。

エゼキエル書は 2600 年前に書かれました。日本で 1 番古いのは古事記で 1300 年前。その 2 倍古い。日本はまだ国の形もなかったし、文字もなかった時代です。

2600 年前にエゼキエルという人物を通して、人類歴史の最終ラウンドにどんな事が起こるかを、前もって預言した書物がエゼキエル書です。

エゼキエル 38:1 さらに、私に次のような主のことばがあった。

エゼキエル書で「さらに、私に次のような主のことばがあった」は、話題の転換の時に使われる言葉です。今まで語っていたのと違う話題・別のトピックスに触れる時、これまで語っていた事をより詳しく突っ込む時に、この言葉が出て来ると言われています。

ここに書いてあるのは、「人類歴史の終わりになると、ゴグと呼ばれるロシアが、単独ではなく幾つかの連合国を率いて、再建されたイスラエルに侵入し、イスラエルの富を全部収奪するために襲いかかり、侵略戦争をする。しかし、イスラエルの領域に入るや否や、天変地異・超自然的な方法で討たれ、1日で全滅する。その様子を世界中が目撃する時、エゼキエル書を読んでいた人たちは、『ここで書かれていた通りの事が、今日の前で起こったのだ』と驚き、エゼキエル書を書かした創造主を信じるようになる」という預言です。

エゼキエル 38:2 人の子よ。メシエクとトバルの大首長であるマゴグの地のゴグに顔を向け、彼に預言して、言え。

ゴグがロシアである根拠；ロシアの現在の首都はモスクワ。メシエクはモスクワの語源です。

トバルはトボリスク。シベリア地方の中心都市でした。

ウラル山脈より西側がヨーロッパロシア（中心はモスクワ）・東側がシベリア（中心はトボリスク）。

両方を兼ねて1つの国になっているのは現在のロシア共和国です。

ロシアは初めから大きかったんじゃない。ロシアの最初はキエフ公国で、現在のウクライナの首都です。大きくなって行った理由は、ロシアはモンゴル帝国によって1度潰されて、250年間国を失うんですね。二度と外から侵略されないために、国境を首都からできるだけ遠くに設けた方がいいという事で、東側にどんどん膨張して、遂に東アジアまでやって来たのです。

マゴグの地；黒海とカスピ海の間にかフカース山脈があり、その地域をザ・カフカースと言います。

そこから上の地域がマゴグの地。黒海とカスピ海の間から、ずっと北極点に至るまでロシアです。

それで、土地から考えてゴグはロシアだと分かりますね。

エゼキエル 38:15 あなたは、北の果てのあなたの国から、多くの国々の民を率いて来る。

イスラエルから見て北の果てがゴグ。イスラエルの首都はエルサレムです。エルサレムから北極点に向かって伸びて行く方角が真北で、どこを通過するかというとモスクワ。なので、北の果てのあなたの国はロシアしかない。ゴグはロシアである。ロシアが幾つかの連合国を率いて来る。

エゼキエル 38:5 ペルシャとクシュとプテも彼らとともにおり、みな盾とかぶとを着けている。

ペルシャはイランです。イランの言葉はペルシャ語。ギリシア人がイラン人をペルシャと呼んだのです。日本人は自分の事をジャパンと言わないでしょ。日本はニホンですよ。でも、マルコ・ポーロがジパングと紹介して、それが英語でジャパンになった。よその人が勝手にジャパンと付けたけどニホンですよ。同じように、イランはアーリアン（アーリア民族の国という意味）だけど、ギリシア人はペルシャと言ったのです。イランがロシアと一緒に来る。シリアの状況は、それが起こっているという事でしたね。

エゼキエル 38:6 ゴメルと、そのすべての軍隊、北の果てのベテ・トガルマと、そのすべての軍隊、それに多くの国々の民があなたとともにいる。

ベテ・トガルマはアナトリア半島。現在のトルコです。イランとトルコがロシアと一緒に入って来る。

実は、今日紹介したいのはプテです。

エゼキエル 38:5 ペルシャとクシュとプテも彼らとともにおり、みな盾とかぶとを着けている。

プテはヘブライ語で現在のリビアです。1世紀にヨセフスというユダヤ人の歴史家が出て、『ユダヤ古代史』という非常に膨大なユダヤ人の歴史の本を書きました。これは、聖書研究する人は必ず読むべき本。その中に「プテとはリビアである」と紹介されています。

リビアはギリシア語ですよ。実際ギリシア語聖書では、プテという言葉が登場する時、リビアと紹介するんです。なぜここをリビアと言ったのでしょうか？

ギリシア人はギリシア神話を持っていました。ギリシア神話でトップの神はゼウス。

2番目にパワフルな神はポセイドン。海の神様。同時に地震の神様。怒らせたらメチャクチャ怖い神さん。ポセイドンの奥さんである女神の名前がリュディアです。

ギリシアから見て、大きな地中海の果てしなく向こうにある一帯・アフリカを指す言葉がリュディア。そこからリビアになりました。ギリシア神話に出て来る言葉なので、当然ギリシア語なんですね。リビアとはプテです。ヨーロッパから見ると、地中海で隔たっています。

このリビアが、今エライ事になっている。

私たちはコロナウィルスばかり考えていますが、中東を見てたら、今リビアが大変です。

リビアには2011年まで、カダフィ（1942-2011）という独裁者が君臨していました。

彼は40年以上独裁者・社会主義者で、独裁権力を振るって思いのままをやっていたのです。

しかし、2011年のアラブの春。中東世界に反政府運動が次々起こり、リビアにも反政府運動が起こって、そこからわずか半年で、カダフィ政権が倒れてしまいます。

カダフィは「徹底抗戦！」と頑張ったけど、最終的には、下水管に逃げ込んでいるところを反政府の民兵たちに見つかって撃ち殺されました。その後、持っていた純金製の2丁のピストルを奪われ、上半身裸にされ、遺体を車に付けられて、市内をガーッと引きずり回されて。

その時の番組を見たけど、カダフィを撃った人のシャツが返り血で血まみれ。「俺はこのシャツを絶対洗わない！カダフィの血が付いているから！」非常に憎まれていた。彼は社会主義者。

リビアのイスラム原理主義の人たちは、宗教弾圧で徹底的に迫害されて来たので、その反動です。

リビアは国土の9割以上がサハラ砂漠です。「サハラ」は砂漠という意味。だから「砂漠砂漠」。どんだけ砂漠か。殿様キングスみたいなものですよ。ダブルミーニングで。どれだけ砂漠か。

耕作可能面積は国土の1%と言われていて、アフリカの中でも貧しい国でした。

ところが、1960年代に入った時、石油が見つかったんです。しかも、リビアで採れる石油は軽質油。石油には重質油と軽質油があって、パラフィンやタールのような不純物がない軽質油は良質な石油です。それが地中海沿岸で大量に採れた。

カダフィはその金を使って独裁体制を敷き、40年以上権力を振るっていたけど2011年に滅ぼされました。

その結果、リビアは東西に分かれます。首都はトリポリ（西側）。

その周辺の小さな地域に GNA という暫定政府ができました。これは、今までカダフィによって弾圧されていたイスラム主義の政党が1つにまとまって、その地域で勢力を持っている暫定政府。国連では一応お墨付きをもらっています。

だけど残りの大部分は、ベンガジを中心にリビア国民軍（LNA）が勢力を持っていて、こちらの方がはるかに強い。リビア国民軍（LNA）のリーダーはハフタル将軍。カダフィ将軍の元高官です。非常に大きな勢力を持ち、恐怖で支配しています。両方共が恐怖で支配して、民衆はたまったもんじゃないと思いますよ。

でも、これは内輪揉めしているだけじゃない。ハフタル将軍の方（LNA）は反イスラムなので、リビアが反イスラムになって欲しくないグループが暫定政権 GNA を応援しているんです。その筆頭がトルコ。軍事力だけでなら、GNA はとっくの昔に負けているのに、負けそうになるけど負けないのはなぜか？トルコが正規軍を増強して、精鋭部隊を送り込んでいます。なので、絶対に倒す事ができない。どうしても倒す事ができない。

更に、リビアの北西部（GNA 側）には油田があって、それを持っているのはイタリア。だから、イタリアもトルコと一緒にあって、暫定政権 GNA を応援している状態。

それに対して反対側（LNA）には、エジプトやサウジアラビアが軍隊・資金・兵器を送り込んで戦っています。もしイスラム原理主義が全部に広がって、それがエジプトやサウジアラビアに波及したら、自分たちの国内体制がひっくり返るかもしれないから。それで、イスラム体制を何としても滅ぼしたいのです。だから、リビアはトルコ VS エジプト・サウジアラビア。

トルコの加勢で暫定政権 GNA がじりじりと強くなっていたのですが、ここに至って、プーチンが乗り込んで来たんですよ。プーチンはハフタル将軍の LNA を応援しているんです。プーチン大統領の側近に、民間軍事会社のワグナー・グループというグループがあって、民兵・傭兵です。ロシアの最新兵器を自由自在に使いこなす事ができるようなこの兵隊を数千人、LNA に入れた。

トルコが入る事によって、これで収まるかと思ったら、ロシアが入る事によって、また LNA が勢いづいた。今年1月、トルコは兵力増強でまた入れてるんです。リビアを巡って、トルコ VS ロシアの激しい戦い。

ついでに言うと、東の方にフランスの油田会社トータルが持っている油田があって、取られたらあかんという事で、フランスが LNA に付いている。

周辺諸国がどんどん軍をつぎ込んで行くので、リビアは収まる戦争も収まらないような状態でグチャグチャですが、決定権はヨーロッパにはありません。こういう内乱状態になって行った時、決着をつけるのは結局軍事力です。ヨーロッパの国々は、初めから軍事オプションの選択がないので、自分たちとしてはただ眺めているしかない。それが今のリビアなんです。では最終的にどうなるのか？

シリアは、トルコとロシアが取り合いをして、そこそこのところで縄張りを決めて、共存共栄に持って行ったんですよ。アメリカがいなくなった後、力の真空を「ロシアかトルコのどちらかで埋めよう」ではなく「ロシアはここをもらう。その代わりに、トルコにはここをあげる」と共存共栄で分け合った。

シリアで起こった事と同じ事が、今リビアで起こっているんです。

カダフィは社会主義だったから、プーチン大統領には「ここはロシアの勢力圏だ」という考えがあるので手放しません。最終的には、ロシアとトルコでリビアを分割統治するという線が濃厚です。

エゼキエル 38:5 ペルシャとクシュとプテ（リビア）も彼ら（ゴグ/ロシア）とともにおり、

「リビアもロシアのコントロール下に入って、再建されたイスラエルに入る」という預言です。

これが書かれたのは 2600 年前ですよ。

しかし今、世界史の中で、不思議なくらいに、これに合致する状況が出て来ているのですね。

エゼキエル 38:8 多くの日が過ぎて、あなたは命令を受け、終わりの年に、一つの国に侵入する。

その国は剣の災害から立ち直り、その民は多くの国々の民の中から集められ、久しく廃墟であったイスラエルの山々に住んでいる。

その民は多くの国々の民の中から集められ、安心して住んでいる国は、現在のイスラエル共和国において他にありません。

普通は 1900 年間も彷徨っていたら、それぞれ行った先で同化してしまい、民族としてのアイデンティティーが失われてしまっても当然ですが、ユダヤ人はユダヤ人のアイデンティティーを持ちながら、再び元いた所イスラエルに国を造りました。

しかも、国を失った時に話していた言葉までも復活させたんです。ヘブライ語。大昔の言葉ですよ。

日本語に馴染んでいるヘブライ語があります。医者いらずの「アロエ」。ヘブライ語です。

リュックサックやナップサックの「サック」。「革袋」という意味です。旧約聖書に登場する言葉で、日本語として定着しているものもあります。「アーメン」。ヘブライ語です。「その通り」という意味なんですね。

とにかく、ユダヤ人たちが国を造っているのは今において他にない。

そして、トルコとイランとロシアが非常に近い関係になっているのも、長い歴史の中で今だけです。

トルコとロシアは 500 年間に 14 回戦争したんですよ。トルコが勝ったのは 2 回だけ。

12 回はずっとロシアに負けて、負ける度に領土をどんどん削り取られて行ったのですね。

「イスラエルに攻め込んで来る」という近未来の状況がここで紹介されているのですが、最後に 1 つお話して終えたいと思います。

新型コロナウイルスの世界中への拡散を 1 番最初に警告したのは、国家機関でも国際機関でもなく民間機関でした。

カナダのスタートアップ企業のブルドット (BlueDot) が、昨年 12 月 31 日の段階で「中国で流行っているらしい肺炎は、次に台湾・シンガポール・タイ/バンコク・日本/東京に飛ぶ」という予測を立て、どんな順番・経路で飛ぶかという事を予測していました。カナダの人工知能がそれをやった。

アメリカの CDC がそれを警告したのが 1 月 6 日。WHO (世界保健機関) が言ったのが 1 月 8 日。

去年の段階で警告したという事で、すごく注目を浴びています。ブルドットとはどんな企業か？

2003 年カナダにも SARS が入り、44 人の患者が治療の甲斐なく亡くなりました。その時、トロント最大の病院に勤務していた呼吸器内科の医師が、この感染症で亡くなった最大の理由はどこにあるのかを考えたのです。

結果、「中国は情報開示がない。世界の政府も情報開示するとしても遅い。情報を持っている者がすぐに明らかにしない。感染症ではスピードが決め手なのに、そのために判断して行く材料がない。だったら、世界のどこよりも早く感染症をキャッチできるシステムを作るべきだ。」

彼は 40 人ほどのスタッフを集めて、世界 65 か国のニュース・牛や豚など家畜の情報・ハエや蚊やネズミなどの害虫/害獣の生息状況及びその状況・世界中を飛び交っている毎日の航空便経路と運ばれた人数・どの都市を何時に飛び立ったのかの経路・気象変動ファクターなどを分析して、次にどうなるかという事を、今までにも当てているんです。エボラ出血熱の時も的中させています。

「12 月 31 日の段階で分かっていたら、もっと手を打てたのに」と、今思うわけですね。

ところで、ブルドットはこれをやるのに、意外な事にグーグルはしないんです。グーグルだって、人工知能を持っているじゃないですか。なぜしないか？インフルエンザの蔓延状況の分析・インフルエンザがここで流行っているという事を人工知能に勉強させると…、

人工知能の判断の材料の中に SNS を入れていたんですね。

病気じゃない人でも「ここで流行っていそうだな」と言うと、皆検索するでしょ。検索数が上がると、自然と「そこが爆発的な事になっている」となるので、グーグルはそこから撤退したんです。

ブルドットは、集めている「こことこことここを見ていたら間違いない」という情報をディープラーニングで分析させ、その後、医学的見地によって判断したものを、世界中の公衆衛生の専門家に送っている。それをしている動機は、始めたドクターの「助かって欲しい。悪いものの蔓延に呑み込まれて欲しくない。悪いものが来る前に警戒すべきだ、という事を知らせる事ができたら対処ができるだろう。」

なので、安全保障に長けている方はブルドットに注目していた、と言われていました。

前もって危機を紹介し、しかも的中率が極めて高いというものがあれば、注目するのは当然。

でも、漠然とした警告しか与えられない。だけど、無いよりはいい。前もって危機を教えてくれるものがあるなら、それを見るのは当然だとするならば、これから世界がどうなっていくのかを確実に、詳しく語っている聖書は、もっともっと精通して、研究して、向き合っていく価値があるのではないかと考えます。

創造主はドクターのように、私たちが癒したい・良くしたい・健やかにしたい・健全に育てたいと思っておられます。この創造主が本当にいる事を信じる根拠として聖書預言があります。

これは必ず実現します。今まで全て実現して来たからです。

是非、**エゼキエル書**・**旧約聖書**・**新約聖書**の言葉を通して、創造主と出会ってくださいますように、心からお勧めして、今日の講演を終わらせていただきます。

最後までご清聴ありがとうございました。

~~~~~  
\* 今回使用した聖書は新改訳第 3 版です。

\* 動画は YouTube で「**HCA 東住吉キリスト集会**」

\* ラジオ番組「**聖書と福音**」(約 14 分) も是非どうぞ。YouTube もあります。

\* YouTube 「**ごうちゃんねる**」(約 10 分) も是非見てください。

動画筆記 : Rumi